

TOKYO ● 2020
CANDIDATE CITY

夢と希望につながる オリンピック・パラリンピックを ぜひ日本で

荒川 静香氏

2004年世界選手権優勝。2006年トリノ五輪金メダル獲得。現在は、国内および海外のアイスショーを中心にさまざまな分野に精力的に挑戦している。プリンスホテル所属。日本スケート連盟理事。



私がフィギュアスケートと出会ったのは5歳のころ。その日はスキーに行く予定でしたが、予定を変更して両親がスケートに連れて行ってくれました。リンクの上でスピンをする女の子のヒラヒラと揺れるスカートがとても衝撃的で「私もあれがしたい!」と思ったのが私のスケート人生の始まりです。私は、小学生のころの1998年長野オリンピック開催決定で「夢」をもらった一人です。その決定会見を見ていて、日本でオリンピックが開催されるのなら、ぜひ、私も出たいという漠然とした大きな夢をそこで持ちました。そこからジュニア、シニアと競技を続け、初めてシニアのカテゴリーに出場するようになった1997年、全日本で優勝し、長野オリンピックに出場する権利を獲得しました。それまでに世界選手権などの出場経験がなく、初めての世界規模の大会がオリンピックでした。目の前のことをこなすのが精いっぱい、本番にたどり着くのがやっとだったというのが率直な思いです。長野オリンピックで印象的だったのは、たくさんの方々がオリンピックにかかわっているということ。それを肌で感じることができました。メディア、運営をされ

る方、ボランティア、応援して下さる方々、そして選手。本当にたくさんの方々がかわる大きなイベントが日本で開催され、そのイベントに選手として参加できたことは、今も私の心の中で大事な思い出です。

地元でオリンピック・パラリンピックが開かれれば、子どもたちに夢を与え、未来への流れを育むこともできます。心の復興をテーマに掲げた東京オリンピック・パラリンピック招致。未曾有の震災から2年が過ぎましたが、本当に復興と呼ばれる日がくるまでは大変時間がかかることでしょう。もし日本での開催が決まり、たくさんの方々が外国から来てくださることができたら、日本が震災以降どれだけ力強く歩んできたのかを知っていただくチャンスにもなると思いますし、開催決定を機にもっと復興に近づいていくのではないのでしょうか。また、オリンピック・パラリンピックに夢を抱く子どもたちも増えるでしょう。未来を担う子どもたちにとって日本で開催される意義はとても大きいものになるに違いありません。

私がオリンピックに参加し感じてきたことは、オリンピックは世界中のさまざまな方々の思いをつなぎ、そこにはたくさんのお会いがあり、そこからまた新たな夢、道へとつながっていく場であるということです。それがオリンピックの醍醐味、良さだと思います。ぜひ、日本でオリンピック・パラリンピックを開催する機会を得て、たくさんの方々のこれからの夢と希望につながることを心より願っています。

2020年オリンピック・パラリンピック開催都市として東京が名乗りを上げています。国際大会の招致は日本の存在をアピールする機会になると同時に、さまざまな経済効果が期待されます。このコーナーでは、会員あるいはゲストの方にそれぞれの立場と視点から、オリンピック・パラリンピックがもたらす効果について寄稿いただきます。